

第三章 そ の 他

第 1 節 参考資料

1 おおつ健康フェスティバル

高齢社会を迎えた今日、健康で生きがいをもって、人生を豊かに自分らしく、明るく暮らすことができる地域社会を実現するため、市民一人ひとりが健康を振り返り、あるいは体験を通して健康づくりを見直すきっかけとなることを目的として、平成3年から実施している。

- (1) 日 時 令和6年10月6日(日) 10時～15時
- (2) テーマ のぼそう健康寿命一身につけよう健康習慣ー
- (3) 主 催 おおつ健康フェスティバル実行委員会
- (4) 場 所 明日都浜大津
- (5) 内 容
 - 式典、健康シールラリー
 - ステージイベント
 - ・健康トークショー
「自分に合った健康法」
出演：お笑い芸人あいはらさん（メッセンジャー）
 - ・大津市健康推進連絡協議会による活動発表「はやねはやおきあさごはん」
 - ・大津鍼灸マッサージ師会による活動発表「太極拳をやってみよう」
 - ・大津市消防音楽隊による演奏
 - 事業内容
がん予防、骨密度測定、食育啓発、血圧測定、マッサージ体験 など

2 研究及び外部での講演等の報告

【研究報告】

タイトル	大津市の感染症対策に係るネットワークづくりについて
報告学会名	第 63 回近畿公衆衛生学会
発表者名	保健予防課 ○吉田未佳、井上聡美、宮本まな、山田由香里、井上誠、中村由紀子
<要旨> 保健所開設後に新型インフルエンザの発生等、複数の感染症危機事案を経験し、必要と考える会議や研修会を実施してきた。今般新型コロナウイルス感染症の対応を通して、あらためて感染症対策に係るネットワークを充実させる必要性が明らかになった。関係機関と課題や目標を共有しネットワークを強化することが重要である。	

タイトル	大津市精神保健福祉に関する早期介入・支援事業を通じた地域包括ケアシステムの構築について
講演会・研修会名	第 63 回近畿公衆衛生学会
発表者名	保健予防課 杉山更紗
対象者及び参加人数	全国精神保健相談員会会員等 50 名
年月日	令和 6 年 8 月 23 日
<要旨> 令和 4 年度から保健予防課に専任の多職種チーム「かけはし」を設置し、従来の方法では相談関係の構築が困難な未受診、受診中断の方へのアウトリーチ支援を軸とした「精神保健福祉に関する早期介入・支援事業」を実施している。支援チームによる直接的支援だけでなく、事務局会議や運営会議等で関係機関と協働することで支援モデルとなるような事例を経験したため、その実践を振り返り、精神保健福祉に関する支援体制の在り方および効果について考察したことを報告した。	

タイトル	大津市子ども発達相談センターを利用した中学生に関する調査
報告学会名	第 63 回近畿公衆衛生学会
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
<要旨> 子ども発達相談センターの利用児のうち、中学年代で初めて相談につながった子ども（全体の 5.3%）の実態を把握することを目的に後方視的調査を行い、その結果を報告した。低年齢でセンターにつながり中学年代も来所相談を受けた子どもに比べて、相談時期が遅い（中 2、中 3 が多い）、本人が来談しない、二次障害の割合が高いことが把握された。思春期における「こころの健康」「支援につながる力」といった観点からも、低年齢からの相談開始は重要である。	

タイトル	院内感染対策強化のための取組 ～机上訓練・アクションカードの作成～
報告学会名	第 55 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健予防課 ○井上聡美、吉田未佳、山田由香里、井上誠、中村由紀子
<要旨> 市内病院における新型コロナクラスター発生時の対応に差があったこと、初動対応が遅れ、終息に時間を要したことから、ICNが不在であっても適切な対応が取れることを目的に、毎年実施している市内の全病院の感染対策担当者を対象とした会議において机上訓練を実施し、「院内感染対応アクションカード」を配布した。今後も病院職員の感染対策の知識・技術向上と病院間の連携強化のための会議、研修を継続する必要がある。	

タイトル	大津市保健所堅田すこやか相談所における乳幼児健診未受診者への受診勧奨について
報告学会名	第 55 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健総務課 ○朝加菜摘、土井朝子、齊藤祐子、山口繭子、中村瑞枝、平田恵美、平田浩二、片岡聡志、大石達也、中村由紀子
<要旨> 大津市で実施している乳幼児健診においては、健診対象月から2か月経過した未受診者に対し、はがきや電話、訪問により受診勧奨を行っているが、それぞれの健診の受診率は90～96%で推移している。そこで、さらに受診率を高めるために、未受診である理由を聞き取り、より効果的な受診勧奨方法について考察したので報告した。	

タイトル	就労世代における歯科口腔保健の推進を目指した新たな取組み ～歯周病リスク検査を活用した歯科保健指導を実施して～
報告学会名	第 55 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	健康推進課 ○藤崎ともみ、原田真弓、木本知子、戸崎秀樹、白須誠義、中村由紀子
<要旨> 歯周病と全身疾患との関連性が明確になっている中、本市における歯周病予防対策を充実させていくため、厚生労働省が実施する就労世代を対象とした実証事業に参加したので、その取組みについて報告した。	

タイトル	大津市における産後ケア事業利用後の切れ目ない子育て支援について ～産後ケア事業を通して見えてきたニーズと課題～
報告学会名	第 55 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	母子保健課 ○佐野実生 藤本亜由美 北村敦 米丸和花菜 久場千景 坂口和代 多賀尚幸、中村由紀子
<要旨> 令和3年度から産後ケア事業を実施しており、高齢初産の増加によるハイリスク出産の増加、核家族化により育児不安を訴える市民の増加から産後ケア事業の需要が高まっている。産後ケア事業の対象は出産後1年未満の産婦であるが、育児不安の内容は児の成長に伴って変化する。利用者については、保健師等が利用後も寄り添い支援していることから、産後ケア事業を通じた育児支援について検討し、3年間の事業を通して見えてきたニーズと課題を報告した。	

タイトル	民間企業との連携によるがん対策推進の取組について
報告学会名	第 63 回近畿公衆衛生学会
発表者名	健康推進課 ○武田恵※、中村瑞枝※、大泉聡志、藤本亜由美※、白須誠義 大津市保健所 須佐美雅幸※、中村由紀子 ※演題申し込み時点における所属
<要旨> 本市では、平成 29 年 6 月に大津市がん対策推進基本計画を策定し、がん対策を推進している。令和 3 年度に実施した計画の中間評価において、小規模事業所におけるがん対策が課題に挙げたことを受け、令和 4 年度に「民間企業との連携によるがん対策推進事業」をモデル事業として実施したので、その結果について報告した。	

【講演等報告】

タイトル	住居内に発生する虫の相談対応について 大腸菌群が連続して検出された洋生菓子製造施設に対する改善指導結果について
講演会・研修会名	第 44 回生活衛生業務研修会
発表者名	衛生課 清本三紀、青木直也
対象者及び参加人数	大津市及び滋賀県職員 30 名
主催者	大津市、滋賀県
<要旨> 食品衛生、衛生営業、水道及び動物愛護にかかわる生活衛生関係職員が相互の研鑽を行い、最新の知見並びに監視指導技術を習得し、職員の知識と資質を向上させ、もって今後の生活衛生行政の進展に寄与することを目的に、業務実績等について報告した。	

タイトル	自立を見据えた就学相談のあり方
講演会・研修会名	令和 6 年度 就学相談に係る研修会（専門研修）
発表者名	子ども発達相談センター 木全清友
対象者及び参加人数	100 人
年月日	令和 6 年 6 月 20 日
主催者	滋賀県教育委員会
<要旨> 県教委主催の研修において、県内小中学校教員や市町指導主事を対象に、障害のある子どもの就学相談について具体的事例に基づく留意事項や今後の課題等について講義を行った。	

タイトル	子どもたちの未来のためにつけておきたい力とは ～卒業後の進路を見据えて～
講演会・研修会名	市立志賀小学校校内研修
発表者名	子ども発達相談センター 橋本奈美香
対象者及び参加人数	50 人
年月日	令和 6 年 7 月 18 日
主催者	大津市教育委員会市立志賀小学校
<要旨> 特別支援学級在籍児の保護者、並びに担任を対象として、卒業生の姿や高校の先生の話を紹介しながら、次に向かうエネルギーや社会性の育ちなど、教科の学習だけでは身につかない力の重要性について深め合った。未来や進路を考えることは今をどう過ごすか、大人も確かな目で子どもの個性や良さに気づく心の余裕を持ち、楽しんで見守ることの大事について、意見交流しながら学び合った。	

タイトル	発達障害のある子どもの理解と支援
講演会・研修会名	令和 6 年度 逢坂学区人権推進協議会夏の集会
発表者名	子ども発達相談センター 木全清友
対象者及び参加人数	120 人
年月日	令和 6 年 7 月 20 日
主催者	逢坂学区人権推進協議会
<要旨> 発達障害のある子どもの特性について解説し、家庭における子育てや学校における指導に役立つ見立て、指導方法、学級づくり等について、幅広い内容について講演を行った。	

タイトル	授業研究会講師
講演会・研修会名	令和 6 年度 県特別支援教育研究会通常の学級における発達障害教育研究部会
発表者名	子ども発達相談センター 木全清友
対象者及び参加人数	20 人
年月日	令和 6 年 11 月 12 日
主催者	滋賀県特別支援教育研究会
<要旨> 通常の学級における英語科の授業を参観した後、授業研究会に参加し、発達障害のある生徒への支援について助言を行った。その後、発達障害のある生徒への指導について講話を行った。	

タイトル	滋賀県新興感染症リスクコミュニケーションシンポジウム
発表者名	大津市保健所長 中村由紀子
講演会・研修会名	同上
対象者及び参加人数	保健・医療・福祉関係者、県民
年月日	令和6年11月29日
主催者	滋賀県
<要旨> 保健所における新型コロナウイルス感染症への対応経験を踏まえ、リスクコミュニケーションの重要性について講演しました。	

タイトル	こころの健康について考えよう
講演会・研修会名	令和6年度 大津市専門科校医派遣事業
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
対象者及び参加人数	150人
年月日	令和6年12月19日
主催者	大津市教育委員会・公益社団法人大津市医師会・唐崎小学校
<要旨> 小学校6年生と教員を対象に、こころとは何か、ストレスとは何か、こころが健康であるためにどんなことを意識するとよいのかを中心に、例え話やデモンストレーション（筋弛緩法、呼吸法）も交え、平易な表現で説明した。	

タイトル	小学校における特別支援教育について ～進路を見据えて、今、大切にしたいこと～
講演会・研修会名	令和6年度 市立唐崎小学校校内研修
発表者名	子ども発達相談センター 橋本奈美香
対象者及び参加人数	30人
年月日	令和6年12月20日
主催者	大津市教育委員会市立唐崎小学校
<要旨> 特別支援学級在籍児の保護者と担任を対象とした進路懇談会として、卒業生や子ども発達相談センターで出会った親子の事例を紹介し、子どもを支える大人としてどのような関わりや視点が大事なのかを考え合った。また子ども発達相談センターで行っている保護者学習会のエッセンスも紹介しながら、子どもを見守り育む環境や工夫の重要性について意見交流を交えながら深め合った。	

タイトル	幼児期後期の発達と保護者支援について
講演会・研修会名	令和6年度“中エリア子育て支援ネットワーク会議”
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
対象者及び参加人数	60人
年月日	令和7年1月24日
主催者	大津市中エリア子育て支援ネットワーク会議
<要旨> 発達に関する総論と各論（3歳～5歳児の発達）、保護者支援について講義した。特に保護者支援に関しては、保護者の心情に配慮した支持的なやり取りと、保護者自身の認知コミュニケーション課題を踏まえた関係づくりと面接の進め方を中心に講義した。	

タイトル	小児期のこころの発達と発達障害
講演会・研修会名	滋賀県立リハビリテーションセンター小児分野リハビリテーション研修
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
対象者及び参加人数	50人
年月日	令和7年1月25日
主催者	滋賀県立リハビリテーションセンター
<要旨> 県内で小児分野のリハビリテーションに興味がある専門職（理学療法士、作業療法士、言語療法士）を対象に、発達に関する総論、小児期のこころの発達（乳児期から思春期までの精神発達課題）、発達障害について（総論と各論、発達障害のある子どもの育ちと支援の要点）を講義した。	

タイトル	子ども発達相談センターをご活用いただくために
講演会・研修会名	令和6年度公益社団法人大津市医師会発達障害児支援研修会
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
対象者及び参加人数	20人
年月日	令和7年3月1日
主催者	公益社団法人大津市医師会
<要旨> 地域医療との連携強化を目的に、障害や支援についての考え方の変遷、発達支援にかかる各種情報の提供、本市の相談支援体制、等について説明した。また、子ども発達相談センターと医療機関との連絡連携の効率性と効果向上を目的に新たに作成した文書（説明文書や情報提供書）の活用を依頼した。	

【雑誌等への執筆】

タイトル	発達障害と思春期
書籍名、出版社	大津市医師会誌 Vol. 47, No. 4 p. 8-11 2024
出版日	令和6年4月
著者名（共著）	龍田直子
＜要旨＞ 発達障害のある思春期児童は、発達特性に関連したストレスと思春期特有の葛藤が重なるため、心身症や精神症状、行動上の問題が生じやすい。葛藤の多い思春期を超えるためには、思春期までに築き上げた精神的土台と、心理的成長に伴走するサポーターの存在が欠かせない。医療、福祉、教育、保健等の関係機関が支援の目的を共有し、相互連携して、発達障害をもつ子どもの育ちと親の子育てを支えることが重要である。	